

衣 Kinu-oto 音

絹の触れ合う音、時にきりっとした緊張感を与え、
時にやさしい安らぎを与えてくれる気がします。

昨今、絹に似た繊維がいろいろ開発されていますが、絹ならではの音、
天然繊維だけが持つ独特のこの音と同じものはないでしょう。

自然と自然、本物と本物があわさりこすれあい奏でる、

喜びの音楽なのかもしれませんね。

これから「伝統文化を守る会」は、

本物を大切にしていきたいと思っています。

伝統文化を守る会事務局

〒980-9811 仙台市青葉区一番町 2-11-1 (榊)グランベル内

Tel & Fax 022-268-2171 Fax 専用 022-215-0671



西村宏美

杉野ドレスメーカー女学院卒業
日本女子大学卒業
パリ ES MODE プロ養成機関(CFCM)に
て立体裁断を学ぶ
NDC(日本ファッションデザイナー協会)正会員

1994年10月
「グランベル」を開店、創作活動に入る
平成9年9月
「伝統文化を守る会」を興し代表となる

Work

1994年よりタイ、イタリア、日本、マレーシア、スイス、台湾、フランス、韓国、ドイツ等、FIMT主催の国際ショーに毎年参加。1998年、初のパリコレクション開催。以後、ヨーロッパはパリを中心にコレクション多数開催。1999年より中国人民政府主催の国際ショーに多数参加客演。2005年ドイツ・ベルリン国際ショーに参加。2006年マレーシア・ペナン及び中国・杭州国際ショーに参加。2007年台湾・台北国際ショーに参加。2008年インドネシア、2009年オーストリア国際ショーに参加予定。

東北生活文化大学講演会のお知らせ

演題：感性は国境をこえた

日時：11月21日水 13:00～14:30 会場：三島学園百周年記念ホール 講師：西村 宏美

伝統文化を守る会会員の皆様へ

紅葉の便りに初冠雪も加わって、秋がよいよ深まり冬へと季節が移り変わろうとしています。
皆様にはお健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さてこの度、西村宏美は東北生活文化大学のご依頼により、公開講座の講師を勤めさせていただくことになりました。

講演とともに大学女子学生のモデルによるファッションショーも予定しています。公開講座ですのでどなたでもご参加いただけ、入場料も無料となっております。芸術の秋の一日、ご家族、ご友人様お誘い合わせの上ご来場くださいますようご案内申し上げます。

お申込み・お問合せは東北生活文化大学・家政学科へ直接お願いいたします。

(同封のパンフレット下に記載) <http://www.mishima.ac.jp/univ/index.html>

ACCESS

■仙台駅より利用するバス路線

【仙台駅前からバス約25分】

- 仙台ホテル前
虹の丘団地行
〈宮城交通バス〉
→「三島学園東北生活文化大学・高校前」下車
- 仙台ホテル前
将監団地行・松陵ニュータウン行
鶴が丘ニュータウン行・明石台団地行
向陽台団地行・富谷営業所行・吉岡行など
〈宮城交通バス・仙台市営バス〉
→「北根3丁目」または「虹の丘団地入口」
(下車徒歩約10分)

■地下鉄利用の場合

- 旭ヶ丘駅
虹の丘団地行・八乙女駅行・泉中央駅行
〈宮城交通バス・約10分〉
「旭ヶ丘駅」
→「三島学園東北生活文化大学・高校前」下車
- 八乙女駅(当駅より徒歩の場合は約20分)
虹の丘団地行・仙台駅行
〈宮城交通バス・約10分〉
「八乙女駅」
→「三島学園東北生活文化大学・高校前」下車

●お申込みは直接家政学科へ●

TEL：022-272-7514 (直通)

FAX：022-274-8530

E-mail/daika@mishima.ac.jp

氏名(フリガナ)住所、電話番号、
年齢を明記の上、はがき・FAX・
メールのいずれかで11月10日
(土)までにお申し込み下さい。

…Hiromi Nishimura PAPIER JAPONAIS Modeles Haute Couture…

フランス国立政治科学大学校 2000年4月19日の講演会に思いをよせて

私は2000年4月19日にParisのカルチュラタン地区にある国立政治科学大学校の大講堂にて、「日本の伝統文化—和紙の世界」と題して講演をしました。主催は、大学の卒業生からなる団体からの依頼で、母校の在校生に「日本人の感性にふれグローバルな世界観を育成したいとのもの」でした。フランスの大統領をはじめ多くの政治家を輩出している同校の卒業生の有志がスポンサーとなり、年に一度外国人を講師に招いて特別講演を開催するというイベントでした。

フランス人の学生に尋ねてみると、日本の和紙のイメージは便箋かランプシェードのイメージしかありませんでした。もちろん日本でも文をしたためるために、経典を書き残すために、そして「ちょうちん」や「番傘」など、和紙は生活の中にさまざまな形で利用されてきました。日本人の大人は、ホッチキスがなかった時代に紙を「こより」として用いたこと、茶道の懐紙について…。子供たちは「千羽鶴」をつくり病気のおばあちゃんにプレゼントしたこと、紙飛行機をつかって飛行距離を競争して遊んだこと、お正月に凧あげをして遊んだこと…等。日本の生活文化と和紙のかかわりから、日本人特有の感性が磨かれ、「折り紙」の造形美から西村宏美の和紙のデザインが生まれたこと…等、和紙で服を作る時に苦労したこと、工夫したこと…等を、作品を通して紹介しました。

学内の廊下でウォーキングのオーデションをして、女子学生から10名のモデルを選び、和紙を素材とした西村宏美のオートクチュール和紙の作品を披露してもらいました。音響照明やヘアメイクは、それぞれの作品にあわせて学生たちが自由に演出を担当し、まさに日本の伝統文化、和紙のデザインとフランスのエスプリが融合して、学生と共に企画したこのファッションショーは文化祭のように盛り上がりました。

ファイナーレの時、ラウンド型の小さなブーケを学長からいただきました。楽屋にもどり、あらためてそのブーケを覗いてみると、なんと、バラの花束は全て学生達の手作りの折り紙でした。折り紙の花束をもらうのは初めての事でした、しかも外国で…。その花束はバラの香りかわりに、フランスのエスプリの香りであふれていました。

文：服飾デザイナー 西村宏美 (2007年9月記)

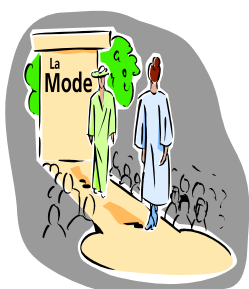
2007年11月21日東北生活文化大学講演会 演題：感性は国境を越えた…の、エピソードです！

学校法人三島学園は、明治33(1900)年、東北法律学校の設立に、その輝かしい歴史が始まったそうです。100余年の伝統校の学生に、私に出来る講演とはなんだろう…。講演会の内容の打合せのために向かうキャンパスの道すがら、私は静かに思案していました。たまたま、家政学部学部長をはじめ数名の教授に、私が上記フランスでの講演内容をお話しすると、学生の感性を磨きグローバルな世界観の育成を目指すことは、本校の目指す教育と共通するとのことのお返事を頂きました。特に家政学部は、創造的な人材の育成、生活と美の融合を思考する独創性豊かな人材の育成を教育理念と掲げ、各人の自主性を伸ばすことに努めているとのことでした。かくして、演題：感性は国境を越えた…が決まりました。

いまや「聞く人と話す人」だけの講演会では消化不良の時代を迎えましたね。学生にモデル役を依頼し、その若いパワーを追い風に、つたない私ですが世代を超えた参加型コラボレーション講演会を企画します。10月20日の学園祭で素敵なお洋服を披露してくれた家政学部の8名の女子学生を御紹介しますね。

会場にて、会員の皆様との再会を楽しみに致しております。

文：西村宏美(2007年10月記)



11月21日講演会のモデルは東北生活文化大学被服科の8名女子学生です！



10月20日、東北文化大学学園祭ファッションショーで大活躍！達成感に溢れた若者の笑顔は素敵ですね…

晴れ間ものぞく晩秋の一日。参加会員11名は仙台駅に集合し阿武隈急行に乘車、おしゃべりに花が咲き、あっという間に「あぶくま駅」に到着。それは5年前の11月9日のことでした。

眼下に流れる阿武隈川の紅葉の谷間をぬって、早速舟下りに出発。丸森音頭のBGMが旅情を誘い、船頭さんの名所案内を聞きながら、右に左にと揺れる舟の旅。川風は頬をさすように冷たかったのですが、「夫婦岩」「弘法の噴水」などの珍しい景色や伝説を堪能する1時間でした。

昼食の手打蕎麦「清流庵」へ向かう途中、黄色や赤に紅葉した木々のトンネルをくぐり、不動尊公園キャンプ場にて下車。お忙しい中、私たちを出迎えて下さった渡辺町長とにっこり記念撮影。

食後は、藍染工房「野風」を見学。化学薬品を一切使わない古来の伝統技法「天然灰汁発酵建て」の中でも管理の難しい「地獄建て」にこだわり、ここ丸森に工房を開いた八巻秀夫さん。藍色とは程遠い瓶の中の藍汁、浸した白布が10秒20秒と経つうちに、あの藍色に変わっていくのは手品のようでした。古きよき伝統の偉大さを感じるひとときでした。

最後は齋理屋敷の見学。養蚕の盛んだった町にあつて江戸時代から続いた豪商、齋藤家。日頃使っていた高価な品々、家や蔵の造りにも華やかな当時の暮らしぶりが偲ばれ、しばしタイムスリップ。温かいコーヒーで体を温め、今日の感想などを交換し合うホットタイムも旅の楽しさです。

佐藤一朗・伸子御夫妻をはじめ、沢山の丸森町の皆様の温かいおもてなしに触れ、感動いっぱいでお別れしました。日の光がわずかに残って稜線を浮かび上がらせ、なんとも幻想的な景色の中、帰路のホームにはこの年初初めての雪が・・・ 文：伝文会報より抜粋（2007年10月記）

丸森の自然美と人情の温かさに心癒され、衣音に「Memorial Time tripe」の新コーナー誕生！



丸森町が開発した絹100%のシルク和紙で、西村宏美は2001年のパリコレに「シルク和紙のマリエ」を発表しました。そのご縁で交流を深めた丸森町長ご夫妻には、同年、お二人の結婚披露宴でそのシルク和紙のウェディングをご着用いただき、秋の丸森遠足は、佐藤一朗様ご夫妻に誘われての実現でした。

丸森町宅地分譲のお知らせ

「世界一幸せの町丸森町」在住、伝統文化を守る会会員、佐藤一朗さんのメッセージ

「グリーンステージ上滝」は溪流のきれいな宮城県立自然公園「内川・岩岳地区（宮城の奥入瀬とも呼ばれています）」に隣接し、近くには国民宿舎「あぶくま荘」、不動尊公園キャンプ場、農地付貸別荘「クラインガルテン」などがあり、自然景観に恵まれた環境にあります。今回分譲する「グリーンステージ上滝」は、区画も広々（165坪～268坪）としており、家庭菜園もついており、自分で作付けした新鮮でしかも安心できる取りたての野菜がすぐ食べられます。このような環境は、癒し効果も持ち合わせておりますので、体の健康、心の健康にも効果が期待できます。さらに空気が綺麗で星空の綺麗な町としても知られております。是非、お気軽にお電話でお問合せ下さい。 文：丸森町役場勤務 佐藤 一朗

定年後の第二の人生を、せせらぎや小鳥の声を聞きながら無農薬野菜を作り、自然の中でゆったりと暮らす事が、いまや都会人の一番の憧れですね！ 同封のパンフレットをご覧ください。

伝統文化を守る会は1997年9月に発足し、翌1998年12月に、ホテル・ベルエア仙台で記念すべき「第1回伝統文化を守る会主催ファッションショー&パーティー」が開催されました。

ちょうど西村宏美がデザイン事務所を独立して10年。着物地で創る洋服の専門店「グランベル」をオープンして8年目を迎えた頃でした。西村宏美デザインの服を着てご参加頂き、お客様が自らモデルになって披露する・・・というファッションショーは、西村宏美が長年心底にあたためてきた夢でした。筆筈に眠っていた着物が洋服になって重宝しているのよ・・・と、その服を素敵に着こなしてご来店下さるお客様も少しずつ増えてきたので、そんなお客様への感謝の気持ちと会員同士の親睦会を兼ねて、思い切って初めての企画を試みました。

ファッションショーは会議室の椅子を並べ変えただけの手作りの会場で、着物にまつわるエピソードやデザインのポイント、おしゃれのアドバイス等を、時にはユーモアたっぷりに紹介するという、西村宏美のファッショントークと共に進行了。スタートは物怖じしない外人ペア(仙台在住の語学教師)、続いて西村宏美が懸命に説得し、やっとモデル役を引き受けて下さった日本人。モデル役初挑戦で少し恥ずかしそうな緊張感をほぐしてくれるような、御家族や友人達による暖かい観客の拍手に励まされ、アットホームな雰囲気の中で楽しい一時を皆様と共有しました。

ショー後のクリスマスパーティーは、ホテルのレストランでの立食形式でした。貸切のレストランは予想以上のお客様で満員状態でしたが、その分初対面でも楽しい会話が弾みました。同年2月に西村宏美は初のパリコレクションを開催し、世界の壁は広く厚いことを実感し、心身ともに疲れ果てて帰国したその年の瀬に、この伝統文化を守る会主催のファッションショーはスタートしました。それは、西村宏美にとって思い出に残る最高のクリスマスプレゼントでした。

文:伝文会報より抜粋 2007年10月記

今年は充電の年でした。来年から心機一転しますので、これからもよろしく願います。

1998年第1回ファッションショー&パーティーより、宏美は若かったね



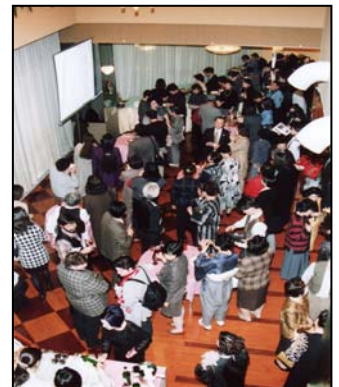
左: 第一回ショートップ出のモデルは度胸のあるマリーさんに。



左中: ホテルの会議室を利用した質素なショー会場の雰囲気。



右中: 東京から駆けつけてくれた堂々とした会員モデルさん。



右: ホテルのレストランを貸切り、立食パーティーの雰囲気。

●伝統文化を守る会は随時会員を募集しています●

年会費

★一般会員: 3,000円 ★アーティスト会員: 10,000円 ★企業会員: 10,000円

★伝統文化を守る会事務局 TEL&FAX 022-268-2171 FAX022-215-0671 (庄司まで)

お問合せ先

★会費の納入は郵便局の振込用紙をご利用下さい

住所

氏名

電話

FAX